

人と活動のつながりづくりを応援する

にしとも広場

このまちが好きだから



2026
25号



特集

「西区今昔かるた」座談会

～みんなで語る、制作の楽しさ・つながる喜び～

インタビュー 私たちもこの街が大好きです

登録団体インタビュー：「にしすぎ PC 教室」

新規登録：「西区街の名人・達人」のご紹介



にしく市民活動支援センター
にしとも広場



「西区今昔かるた」座談会

～みんなで語る、制作の楽しさ・つながる喜び～



令和5年度西区生涯学習講座『写真で西区の今昔を学ぼう』を通じて制作された「西区今昔かるた」（以下「今昔かるた」）。今回は、生涯学習講座に参加した今昔かるたの制作者と、令和6年度『西区今昔かるた伝道師養成講座』を受講し、伝道師として活躍中の皆さんにお集まりいただき、制作のエピソードや地域への想いを語っていただきました。（進行役：にしとも広場 山田美智子）

——今昔かるたとの出会い、参加のきっかけ

小山：以前から、かるたが好きで、チラシを見た瞬間に「これだ!」と思いました。締切の翌日でしたが、「まだ大丈夫でしょうか?」と問い合わせて飛び込みで参加しました。仲間に入ってみると、とても楽しくて夢中になりました。

坂本：今昔かるたは『写真で西区の今昔を学ぼう』という生涯学習講座から令和5年8月にスタートしました。完成後、令和7年7月には市庁舎アトリウムでもイベントができて、ここまで広がるとは思っていませんでした。皆さんのおかげです。

水谷：ちょうどリタイアの時期で、地域に貢献したいと思っていました。そんな時に今昔かるたの企画を知り、面白そうだと参加しました。

山上：私も退職直後にチラシを見て、生まれ育った西区の歴史を3人の先生方から学ぶことに魅力を

感じました。写真を撮ることも好きなので、絵札作りに少しは貢献できるのではと思って、参加しました。

浅井：仲間内でかるたを作り始めていたところを、地域振興課が講座として形にしてくださいました。読み札を考えていた自分の経験も役立ち、講座の参加者みんなで写真を集めることもできて、立派な今昔かるたが完成しました。

加藤：「西区街の名人・達人」として歴史を語る活動をしています。その中で今昔かるたを知りました。袖ヶ浦の札は高島嘉右衛門にちなんでいて、私のテーマとも重なり活用しています。

吉田：区制70周年のかるた制作には、うちの子どもが関わっていました。親子二代で参加できるなんて嬉しいですね。「西区に住んでいてよかった」と改めて思いました。





山上 薫さん



水谷 大さん



吉田 左知子さん



加藤 明彦さん



——私が選ぶ“とっておきの一札”

山上：『て』の札です。年2回しかない「帆船日本丸」の帆（総帆・展帆）と旗（満船飾）が同時に見られる貴重な瞬間を撮影できました。読み札の『天高く』も、子どもたちの未来を思って自分が考えました。西区の宝だと思っています。

水谷：『な』の札です。幼い頃から馴染み深い野毛山動物園の象『はま子』に思い出があり、この札を選びました。

坂本：『あ』の札、赤門の東福寺です。現地に足を運び、直接お話を伺う大切さを学びました。

小山：『く』の札です。ログハウスに写真撮影に行った折、「近くで富士山が見えるよ」と教えてもらい、探しに行くと、真っ赤な夕焼けに浮かぶ富士山がくっきりと美しく見えました。慌ててシャッターを切りましたが、一瞬で夕闇に飲み込まれてしまいました。後日、その眼下に広がっていたのが久保山墓地だと分かりました。時間的にも場所的にも、私にとっては、期せずして撮れた奇跡の一枚と言えます。

吉田：『ら』の札、ランドマークタワー。わが子の成長と重ね合わせて特別な想いがあります。子どもの成長と西区における我が家の歴史のランドマークだと思っています。

山田：市外から帰ってきて、ランドマークが見えるとホッとしますよね。

加藤：『そ』の札です。袖ヶ浦という情緒ある名称は、今昔かると初めて知りました。

中村：『へ』の札です。平沼家の石垣は小学生の頃から身近で、今も変わっていませんね。

浅井：『し』の札、「シウマイ弁当」。横浜の誇りであり、子どもの頃から思い出深い存在です。

山田：地域のお祭りで、子どもたちに「何から食べる？」と聞くと、シウマイかタケノコって答える子どもが多く、そこから話がはずみましたね。

——イベントで生まれた嬉しい瞬間

吉田：市庁舎で開催したイベントでは、障がいのある方も子どもたちも楽しんでくれて、作って良かったと思いました。

山上：学童クラブの子どもたちが、競技として真剣に取り組んでいて驚きました。心底楽しんでくれていたのを見て嬉しかったです。



坂本 愛実さん
(西区地域振興課)



小山 涼子さん



中村 眞智子さん



浅井 春夫さん





山田：お手玉かるたや「でっかるた」も作っていただき、多様な人々が楽しめる方法が増えました。

浅井：完成記念に制作者みんなでかるた取りをした時、大人でも本気で札を取り合い、爪が刺さって絆創膏を貼ったんですよ（笑）。競技性の原点を感じました。また、区制80周年記念の今昔かるた大会に、声優の井上和彦さんがゲスト参加され、ファンの方が表彰された場面は印象的でした。

山上：札をきっかけに、親子で旧平沼駅を訪ねた話も聞きました。今昔かるたが家族の話題になり、その地に足を運んでくれるのは本当に嬉しいです。

中村：市庁舎でのオリジナルかるたづくりでは、子どもも大人も描いた作品を快く貼ってくれて、盛大になりました。



——未来に伝えたい西区の魅力

中村：町内会ごとに、ゆかりのある場所等の札を出し合い、自分の街を知るきっかけにしたいですね。

小山：西区らしい「お節介」文化を大切にしていきたいです。

坂本：子どもも大人も、西区が大好きな街であり続けてほしいと思います。

水谷：小説や映画、ドラマのロケ地として登場する風景を守りたいですね。

山上：西区の歴史をひもとくことで未来へのヒントが見つかると思います。時代ごとに、その時代の先人たちが何を考え、どのように行動したかを振り返ることが、「これからの世の中をどうしていこうか」と考えるきっかけになるとと思います。

浅井：西区は変化し続ける街でもあります。商店街や街が変わっていく姿を受け入れていきたいです。

加藤：西区は歴史の宝庫。史跡を「西区今昔物語」として伝えていきたいです。

吉田：多世代で楽しめる西区の魅力を、次世代へつないでいきたいですね。

——地域を紡ぐ今昔かるた

座談会では、今昔かるた制作やイベントを通じて広がった人の輪、地域の歴史や文化への誇り、そして未来への願いが語られました。発言が重なり合い、笑いも交えながら進むやり取りから、今昔かるたが世代を超えて人と人、そして地域をつなぐ大切な存在になっていることが伝わってきました。

——伝道師・吉田さんから読者のみなさんへ

歴史とみらいが共にある西区には、新しい人々を温かく迎え入れる土壌があると思います。読者のみなさん、ぜひ伝道師の仲間になりませんか。いつでもお待ちしております。



私たちもこの街が大好きです



「僕らの住む街」

下村 良輔さん（「西区街の名人・達人」登録）

私が西区に住み始めたのは2007年、戸部での暮らしも18年になります。結婚し、娘を授かったことがきっかけで、「ここに暮らし続けよう」と決めました。

娘と過ごす時間を大切にしたい、その思いから「地元」を意識し、戸部から西区中へと家族で色々なところに出かけました。町を知るうちに「地元」への愛着が深まっていきました。西区はこじんまりしていて、自転車どこへでも行ける距離感が魅力です。

音楽は中学生の頃からの趣味で、今もシンガーソングライターとして活動しています。子育てを通じて広がったママ友・パパ友とのつながりから、ライブやイベントを企画し、地元のお店や仲間と交流を重ねてきました。戸部をテーマにしたオリジナル曲「僕らの住む街（戸部ソング）」を作り、自己紹介の挨拶もかねて歌ったりしています。

にしとも広場や「西区街の名人・達人」の方たちとご縁ができると、地域や施設のイベントにも関われるようになりました。皆さんと一緒に笑いながら歌うと、私も元気をもらえます。

娘たち、次の世代の人たちには、自分のできること、創り出せるもの、オリジナリティのあるものを形にして表に出してみしてほしいです。上手い下手は関係ないし、歌でなくても文章でも絵でも何でもいい。

そして西区には、子どもたちが伸び伸びと自分たちの思い描いていることを形にし、さらに次の世代につなげていける場であってほしいと思います。



「働くことも、暮らすことも、もっと楽しく」

森村 梨果香さん（地域大修理生）

西区に住んで30年余りになります。育児休業法施行元年に上の子の育休を取得しました。結婚退職が当たり前の時代に、期せずして、出産後も働き続ける先駆者のようになってしまいました。でも、区役所の保健師さん、保育園・小学校のママ友など地域の温かいつながりに助けられ、仕事と子育てを続けることができました。大変でしたが、楽しい時間でした。その恩返しをしたいという気持ちが、今の地域活動の原点です。

長年、金融業界で働き、今でも現役のFP（ファイナンシャルプランナー）です。その経験を活かして、まず、子育て中のママたちに「お金のことをもっと身近にわかりやすく伝えたい」と思っています。

担い手として参加している子育てサロンで出会うママたちにも、家計管理やお金の正しい知識を通して、

日々のお金の不安を軽減し、投資詐欺などの被害を防げることを知ってもらい、お金について話せる場づくりをしていきたいと考えています。そして何より、「自分で選択できる力」を持つことが、女性たちの幸せにつながると感じています。

今は、共働きが当たり前になり、「貯蓄から投資へ」とお金をとりまく環境も変わりつつあります。先が見えず、不安になることもあると思いますが、地域とのつながりや正しい知識があれば、案外、楽しく乗り越えられるものです。先駆者が言うのですから、信憑性は高いですよ（笑）。私たちの住む街が「子育てしやすく、働きやすい街」になれば、安心して子どもを持てる女性も増えるはず。まずは目の前の人から少しずつ。そんな気持ちでこれからも活動していきたいと思っています。



登録団体インタビュー「にしすぎ PC 教室」

にしとも広場には、まちづくりや地域課題の解決、子育て支援、趣味・特技を活かした文化・芸術活動をしている市民活動団体等が数多く登録しています。このページでは、登録団体のみなさんにインタビューし、その活動を紹介します。

「にしすぎ PC 教室」が開催する「にしすぎスマホ・パソコン相談会」は、町内会から地域へ広がった活動です。今回は代表の山田洋一さん、清水卓明さんにお話を伺いました。

立ち上げの経緯 ～「地域に貢献したい」という思い～

山田：福祉の仕事に長く携わった後、システムエンジニアに転身しました。ところが、福祉の現場を離れてみると、仕事とは別のかたちで、また社会に貢献できないかと考えるようになりました。そんな時、参加していた町内会活動の中で、スマホやパソコンの使い方に困っている方が多いことに気づきました。「回覧板をLINEでやりたいけど、どうしたらいい？」という声もあり、前職から仲のよかった清水さんと高木猛さんに声をかけました。

清水：エンジニアではないですが、パソコンが好きで、学び続けたいと思っていました。困っている方のお手伝いができるならうれしいですし、自分も勉強になります。

活動の内容 ～少人数でじっくりと～

山田：2025年4月から月1回、にしとも広場で「スマホ・パソコン相談会」を開催しています。少人数で初心者でも安心して来てほしくて、町内の掲示板だけで告知。それを見て勇気を出して来てくれた方に、しっかり時間を取って対応し、「来てよかった」と思ってもらえるように心がけています。

清水：来られる方はレベルもバラバラで、質問はスマホの使い方から、パソコンの設定まで幅広く、セキュリティや詐欺メールの相談もあります。



教室の様子

今後の展望 ～夢はでっかく、確実に一歩～

山田：今は個人向けですが、企業の社内エンジニアを対象とした講座や子ども向けの教室もやりたいです。早いうちからパソコンに触れる機会を作りたいですね。

清水：でも、基本は人と人とのコミュニケーション。パソコンはあくまでツール。お互いに話しながら、楽しく学べる場にしたいです。

山田：無料で開催するのも、気軽に来てほしいから。「こんなこと聞いていいのかな」ということでも、気軽に相談できる場でありたいですね。

清水：人と人とのつながりを大切にする気持ちは、福祉の現場で働いていた頃から変わりません。

山田：気軽に来てください。地域で一緒に学びましょう。私たちも、夢はでっかく、確実に一歩。小さく、小さく、しっかり進んでいきます。



清水 卓明さん



山田 洋一さん



新規登録「西区街の名人・達人」のご紹介

地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」とは、仕事や趣味で培った、自分の経験・知識・技術を活かして、地域のイベントや講座などで活動する、ボランティア人材登録制度です。このページでは、「西区街の名人・達人」に新規登録いただいたみなさんをご紹介します（登録順）。

コーディネートはにしとも広場にご相談ください。

（2025年1月～12月登録）



レディヲこぐれ さん
《沖縄唄三線・沖縄の文化・歴史》



田代 貴祥 さん
《相続手続き》



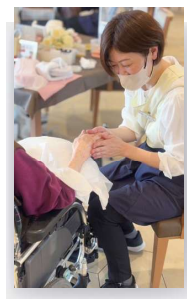
星印堂ナビパートナーズ
井野元 淳一 さん
《組織・運営・診断》



岩崎 桂子 さん
《ボサノヴァ・ポップスピアノ弾語り、
歌声サロン》



美姫 ヒカル子 さん
《ウクレレ》



佐々木 もえこ さん
《ケア美容》



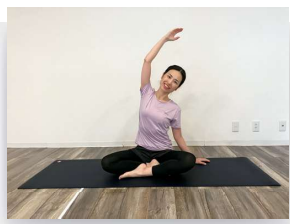
横浜マジカルグループ
《マジック・手品》



佐々木 もえこ さん
《楽しく歌って、楽しく脳トレ！
～歌唱療法～》



ジューテム元之介 さん
《オールディーズ弾き語り》



英語でヨガストレッチ
《ヨガ》



Canva 公式クリエイター
やまもと さん
《Canva デザイン・広報》



バステルンルン さん
《バステル画》

お知らせ

「西区今昔かるた」 販売中

にしとも広場でお待ちしています!!



価格 1,500 円(税込)



編集後記



当初、今号は「西区愛」をテーマに制作を始めました。ところが、インタビューに応じてくださった方々が異口同音に、「原動力は、ただ、目の前にいる身近な地域の人たちが、喜んで（笑って、幸せになって）くれること。その積み重ねが区へと広がっていけばいいですね」と話されました。その言葉に触れ、初心に立ち返る思いでテーマを見直しました。

にしとも広場のスタッフには、事業を進めるうえで広い視野が求められます。しかし、遠くばかり見ていると、目の前にいる方々が見えなくなってしまうこともあります。

目の前のお一人おひとりのために積み重ねる活動が、
やがて区へと広がっていく――。そのことを忘れず、日々
の活動を続けていきたいと思ひます。

(相当：M)



皆さまのご意見・ご感想を

右の二次元コードよりお送り下さい。

次号にしも広場26号は、2027年1月発行予定です。お楽しみに！

“にしとも広場”ってどんなところ？

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。
「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といった
ご相談をお待ちしています。



にしも広場ホームページ



にしく市民活動支援センター
にしとも広場



管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま

TEL/FAX : 045-620-6624

Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

ホームページ <https://nishitomo-city-yokohama.jp/>

住 所 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階

開館時間 9:00~17:00

休館日：毎週水曜日・年末年始(12/29～1/3)

アクセス 京浜急行「戸部駅」徒歩8分

相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分



情報紙「にしとも広場」は、
西区内の郵便局、地区センターやコミュニティハウスなどの公共施設に配架しています。

発行：にしく市民活動支援センター“にしとも広場” 発行日：2026年3月